

# 神戸市感染症の話題

事務局 神戸市保健所予防衛生課

〒650-8570 神戸市中央区加納町 6-5-1 Tel:078(322)6789 Fax:078(322)6763

## 結核

結核を含む感染症は感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)に基づき、医療機関からの発生届の情報が国のサーベイランスシステムに登録され、それにより、日本の感染症の発生動向調査が実施されている。令和元年 8 月 26 日、平成 30 年の「結核登録者情報調査年報」が厚生労働省から発表された。

(<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000175095.html>)

神戸市の平成 30 年の結核登録者情報調査年報について、全国と比較して説明する。

1. 結核罹患率(人口 10 万人に対する新登録結核患者数)  
平成 30 年の結核罹患率は全国では 12.3、神戸市では 16.9、政令指定都市の中(東京都特別区を含む)で、高い方から 4 番目である。そして、市内で最も罹患率が高いのは兵庫区の 35.5 で、次いで中央区 25.6、長田区 24.0 であった。一方、罹患率が低いのは、東灘区 7.0、灘区 13.1、北区 15.0 である。人口の少ない区では変動が大きい、旧市街地である 3 区(中央・兵庫・長田)の罹患率が高い傾向は続いている。灘区、須磨区では罹患率が 20 未満となった。(表 1、図 1)
2. 新登録結核患者数(1 年間に患者として届出られ登録された患者数、再治療を含む)  
新登録結核患者数は全国では 15,590 人で前年より、1,199 人(約 7.1%)減少している。神戸市では 258 人で、前年より、44 人(約

14.6%)減少した。平成 29 年に増加した分も挽回して減少した。数年は増減が予想されるが、着実に患者数を減らしていきたい。(表 2、図 1)

3. 喀痰塗抹陽性肺結核患者数及び罹患率(肺結核患者のうち、喀痰塗抹検査で陽性:喀痰をガラス板に塗って顕微鏡でみる検査で菌が見つかった患者数、及びその人口 10 万人に対する罹患率)  
喀痰塗抹陽性肺結核患者数は全国では 5,781 人、罹患率 4.6 で、神戸市では 73 人、罹患率は 4.8 である。昨年よりも大幅に減少し、平成 30 年は神戸市結核予防計画 2020 の目標の喀痰塗抹陽性罹患率を 7.0 未満とすることを初めて達成した。これを維持しさらなる減少をめざしたい。(図 2)
4. 結核菌の感受性検査結果  
結核菌は、薬剤耐性が誘導されやすく、3~4 剤の多剤併用療法が標準治療である。薬の種類が少なく、Key drug の INH,RFP の 2 剤が耐性であれば多剤耐性結核(MDR)である。新登録肺結核培養陽性患者は全国で 9,016 人、うち、薬剤感受性結果が判明しているのは 7,570 人、MDR は 55 人(0.7%)であった。神戸市ではそれぞれ 133 人、122 人、MDR は 0 人であった。
5. 年齢階級別新登録結核患者数(図 3)  
新登録結核患者を年齢階級別にみると、70 歳以上は全国では 9,335 人で 60%、神戸市では 165 人で 64%をしめる。80 歳以上

は全国では前年より 386 人減少して 6,340 人(40.7%)、神戸市で 11 人減少して 112 人(43.4%)であった。過去の結核罹患率の高さの影響を受け、全国より高齢患者の割合が多いことを示している。合併症や年齢による免疫力の低下により発病しているが、高齢者は症状のわかりにくいことがあるため注意が必要である。

6. 小児結核(0～14 歳の新登録結核患者)

小児結核患者数は全国で 51 人、うち 2 人が重症でいずれも日本出生の 0 歳児、1 人が粟粒結核(BCG 接種歴不明)、もう 1 人が結核性髄膜炎(BCG 接種歴あり)であった。神戸市では平成 29 年に小児結核は 3 人みとめていたが平成 30 年の小児結核は 0 人であった。

7. 外国生まれ新登録結核患者数

全国では前年から 137 人増加し、1,667 人となった。神戸市では 21 人と 8 人減少したが、20 代においては新登録結核患者 20 人中 14 人(70%)が外国生まれであった。全国でも 20 代の結核患者に占める外国生まれ新登録患者の割合は 70.4%となっている。結核の罹患率が高い国で生まれ、大学・語学学校などの留学生として来日し、発病している人が多い。神戸市では 20 代留学生のうち約 3 分の 1 が入国 2 か月以内の健診で、約 3 分の 1 がその後の健診で発見され、残りの約 3 分の 1 は症状が出てからの受診で発見されている。

8. 潜在性結核感染症(結核菌に感染しているが、症状・所見はなく発病していない状態 : LTBI)

全国では平成 30 年 7,414 人で前年より、159 人増加、神戸市では 106 人で前年より、7 人増加している。接触者健診で発見し治療する人より、合併症の治療に際し、潜在性結核感染症の治療が必要となる人が増加し、60 歳以上が約半数を占めている。(図 4)

表 1 罹患率(人口 10 万人あたり)

平成	28 年	29 年	30 年
神戸市	18.6	19.7	16.9
東灘	13.6	14.9	7.0
灘	22.0	21.2	13.1
中央	24.0	21.5	25.6
兵庫	27.1	35.5	35.5
北	14.2	15.3	15.0
長田	31.9	28.0	24.0
須磨	20.5	23.1	15.7
垂水	17.3	17.9	15.2
西	12.7	15.2	15.7

例年10月1日推定人口で計算

表 2 新登録患者数(人)

平成	28 年	29 年	30 年
神戸市	285	302	258
東灘	29	32	15
灘	30	29	18
中央	33	30	36
兵庫	29	38	38
北	31	33	32
長田	31	27	23
須磨	33	37	25
垂水	38	39	33
西	31	37	38

図1 各区罹患率 人口10万人に対する患者数 (2013年～2018年 新規患者)

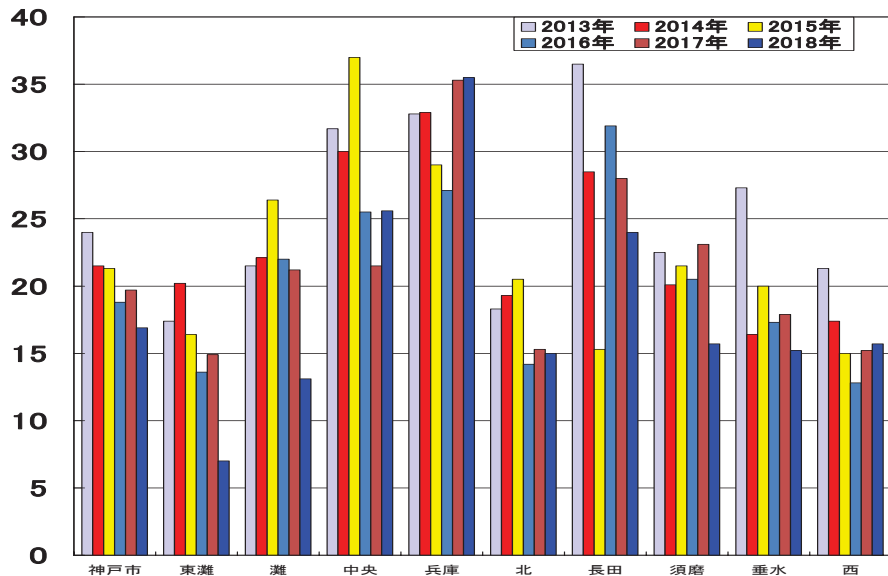


図2 新登録結核患者数(年次推移) 神戸市

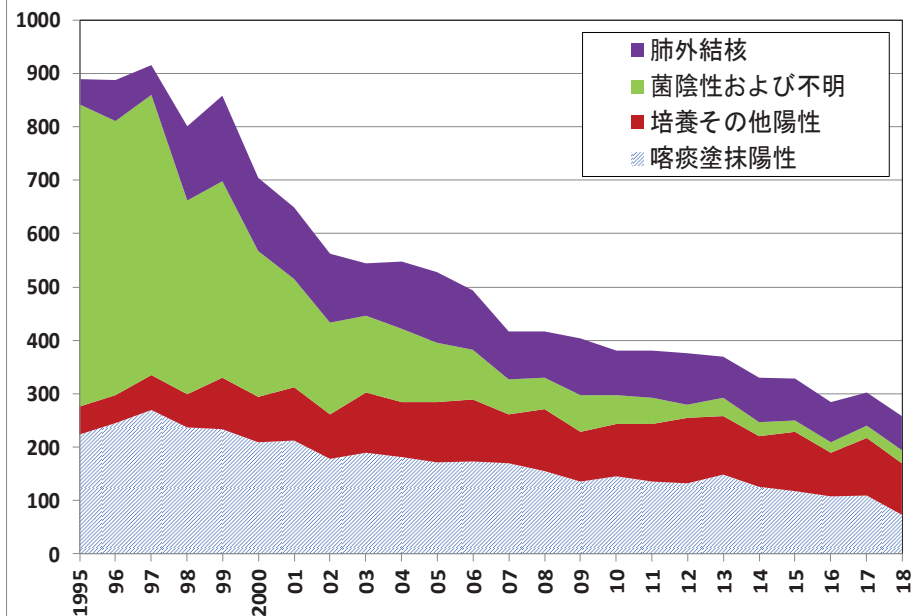


図3 新登録患者年齢分布(神戸市)

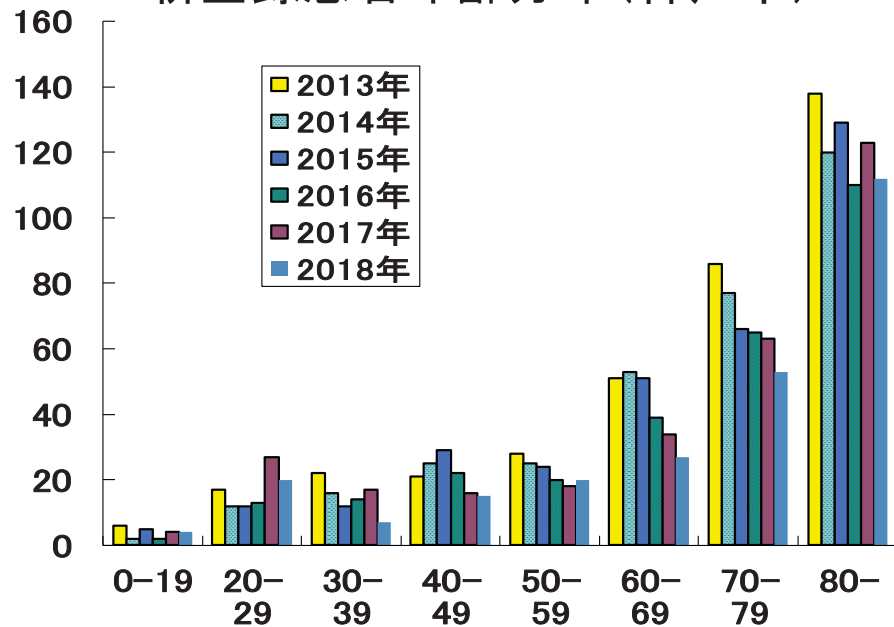


図4 潜在性結核感染症登録者数の推移 (神戸市)

